

平成 27 年 9 月 28 日付発表、都市計画都市再生特別地区の心齋橋筋一丁目地区における
大阪都市計画都市再生特別地区の変更の都市計画案に対する意見書

提出者

氏 名	株式会社 一粒社ヴォーリス建築事務所 代表取締役所長 田中健一
住 所	〒590-0005 大阪市北区中之島 2-2-2 中之島ビル
連絡先	Tel 06-6226-0681 E-mail h.aoi@vories.co.jp (担当 青井弘之)
提出日	2015 年 10 月 6 日

2015年10月6日

「大丸心齋橋店本館建替えにおける都市計画案に対する意見書」

株式会社一粒社ヴォーリズ建築事務所

大丸心齋橋店本館（1933年竣工）は、弊社の前身であるヴォーリズ建築事務所設計の代表作というだけでなく、我が国屈指の百貨店建築として文化的価値の極めて高い作品です。昨年春にその本館の建替え報道がなされ、今年夏に正式に建替え方針が事業主側から発表されました。内容は御堂筋側の外観は保存し、内部は一部のイメージ継承に留まりかねないとのものでした。それを受けて私たち一粒社ヴォーリズ建築事務所は8月28日付けで外観のみならず内部空間の全面保存を前提とした適切かつ慎重な保存再生計画の再考を願う声明文を弊社ホームページ上および一部新聞上に発表しております。

一粒社ヴォーリズ建築事務所は創立者ウィリアム・メレル・ヴォーリズが1908年に起業して以来、その精神を継承し今日も設計活動を続けております。大同生命（1922※設計年 以下同）、矢尾政レストラン（現東華菜館）（1924）、京都大丸（1926）、関西学院（1927）、大丸ヴィラ（1928）、神戸女学院（1929～33）等、建築家事務所として代表的な作品が次々に生み出されたなかでも、大丸心齋橋店本館はヴォーリズ建築として最高傑作といえる位置にあります。そのゴシックリヴァイバルやアールデコ等の様式が煌く融合された独特の意匠は、外観はもちろんのこと内部空間にこそその真の価値を有するものです。先の戦争での空襲によって最上階7階部分の和・洋のレストラン意匠は失われてしまっておりますが、戦争やその後の変遷によって現在は存在しないこれらその他の部分も含めて大丸心齋橋店本館という建築作品であることは揺るぎない真実です。失われたものは復元修復し、その最善の状態へ可能な限り戻し近づけることこそ、あらゆる文化・芸術に対峙すべき普遍の姿勢であると考えます。

ところが、先の建替えの発表では御堂筋側の外観のみ保存し、内部については建替えた上で、既存建物の再利用可能な部分を取り外して使用し、そのイメージを継承したデザインに留めるという主旨の内容でした。一部分のみを新しい箇所に貼り付け、その周辺は全く違ったものに置き換える手法では、この心齋橋店本館が本来持っていた空間的価値の殆どが失われてしまいます。建築は継ぎ接ぎ、一部モニュメント的に残すことが適切な活用法では全くないにも関わらず、我が国においては外壁のみを残してその上に高層部を新築する所謂「腰巻保存」の悪しき慣例がいまもって行われています。この大丸心齋橋店本館においても同様な選択がなされようとしています。一般的な歴史的建築の場合でも、その手法が適切でないことは明らかであるのに、内部空間に筆舌しがたい魅力を持つこの大丸心齋橋店本館においてさえ、そういったことがなされようとしているのは大阪にとっても甚

大な文化的損失とされます。

今回の都市計画案においては、外壁保存し建替えた新館と、既存の北館とを公共の道路を跨いでその上部全てのフロアを繋げようとしているように見受けられます。この計画には前述したように、外壁を保存するというのみで文化面としての保存は達せられたとし、現況内部空間が損失されるということのみならず、復元・修復する事によって可能になるはずであった本来持っている潜在力さえも失われてしまうという懸念事項に対し、全く問題提議がなされていないように思われます。確かに優れた意匠性のある外観は長く御堂筋の都市景観に貢献してきたことと思われます。しかし都市の景観においてその外観のみを保存するだけで継承されるほど、大阪が培ってきた都市の歴史的文脈は軽く軽薄なものではないはずです。

国際的な歴史ある都市には、その場所に古くから脈々と建ち続けそれによってその企業の価値、歴史の重要性を建物によって体現してきた数々の建造物が存在します。百貨店建築もしかりです。大丸心齋橋店本館はまさにこの大阪において、いや我が国においてもその役目を担ってきた建物であり、大丸という一企業のシンボルのみならず都市においてもまさに旗艦的な存在であり続けているのです。その役目は薄皮だけを残した建替えでは、殆ど失われてしまいます。それは、今回の都市計画案に記述されている、「国際競争力を備えた拠点形成」ということとは真逆の方向ではないのでしょうか。周辺と一体となった世界の観光拠点の形成において、なぜ観光的にも最も外国からも集客が見込めると思われる優れた建築芸術を、敢えて破壊し既存の高層棟と道路を跨いでフロアレベルを揃えて新築することが、その拠点形成理由であるということが理解できかねます。

以上、道路上の連結以前の論点ではありますが、この問題は大阪市の公共性、社会性の高い文化・芸術作品の存続危機という非常に重要な問題と受け止めます。大阪の財産ともいえる甚だ貴重な文化遺産を、現存する内部空間とともに、失われた部分も復元・修復し、オリジナルな最も魅力ある状態に可能な限り蘇らせることこそが、言及されている国際競争力を備えた拠点形成になることと確信いたします。

もちろん現況建物に耐震性その他の課題があることも承知しております。安全性、機能性他を確保するために犠牲にせざるを得ない部分もあるでしょう。適切かつ慎重な検討から導かれる結果は決して元来の魅力を消失してしまうものではありません。建替えではそのほとんどを失ってしまいます。安易に新築という解決方法を選ぶのではなく、保存を目標とし、課題を一つ一つ乗り越えたその先には、建替えでは決して望み得ないより企業と都市と歴史の価値を高める、実りある結果があるはずです。北館とフロアレベルを揃えること、単純な増床方法の選択、安易な建替えの方針に対し、今一度有効に保存していく方向性を、大阪市としても社会的公共性をもってともに考え、ご提言いただきたく思います。

先の声明文に言及した通り、私たち一粒社ヴォーリズ建築事務所はじめ、多くの建築専門家ならびに一般の大丸を愛する人々はその協力を惜しまないでしょう。